

福島県の装飾横穴

Decorated Tunnel Tombs in Fukushima, Northeastern Japan

福島雅儀

はじめに

- ① 主要な装飾横穴
- ② 連続三角文の検討
- ③ 狩猟系絵画の検討
- ④ 装飾古墳の意義
- ⑤ 装飾古墳の被葬者層

おわりに

【論文要旨】

装飾古墳の彩色原色を多用した特異な図文は、それが墓室に施されたこともあって強烈な衝撃を与えている。この図文は、呪術や鎮魂・辟邪という目的で施されたものと理解されてきた。しかし図文を解釈する方法や根拠は、不明確な場合が少なくなかった。また装飾内容を文字資料から説明する資料が発見されない現状では、具体的な装飾の意味や意義を明らかにすることはむづかしい。したがって装飾内容の追究は、状況証拠を積み重ねるしか方法はない。

この場合にも、研究視点は明示する必要がある。そこで1～4の視点をもとに、福島県装飾横穴を対象として、図文と描かれた絵画の意味について検討を試みた。1. 図文と構図には、装飾の意味が反映され、相互に位置関係が関連している。2. 描かれた絵画・図文の位置と大きさは、主題や描く人物の関心の軽重関係を示している。3. 描かれた絵画・図文を現代的な感覚で解釈しない。4. 施された装飾を全体としてとらえる。

この結果、従来は呪術的な幾何学文と考えられていた連続三角文は、陣幕が描かれたと考え、中田1号横穴の壁画は配置された副葬品を含めて、戦陣の中心に相当する状況を表現していると考えた。また泉崎4号横穴など渦巻文や動物などが描かれた絵画については、狩猟儀礼として埴輪祭祀の伝統を引き継ぐ内容であると理解した。

これと関連して、福島県の装飾古墳が九州地方から伝播したとする説は、個々の構成要素を比較検討すると、その構成要素に多くの相違点があることから成立しない。また被葬者の社会的地位についても、古墳の構造や副葬品の在り方から中田1号横穴以外の装飾横穴では、被葬者は有力豪族層ではなく群集墳を構成する階層に属している点を強調しておきたい。